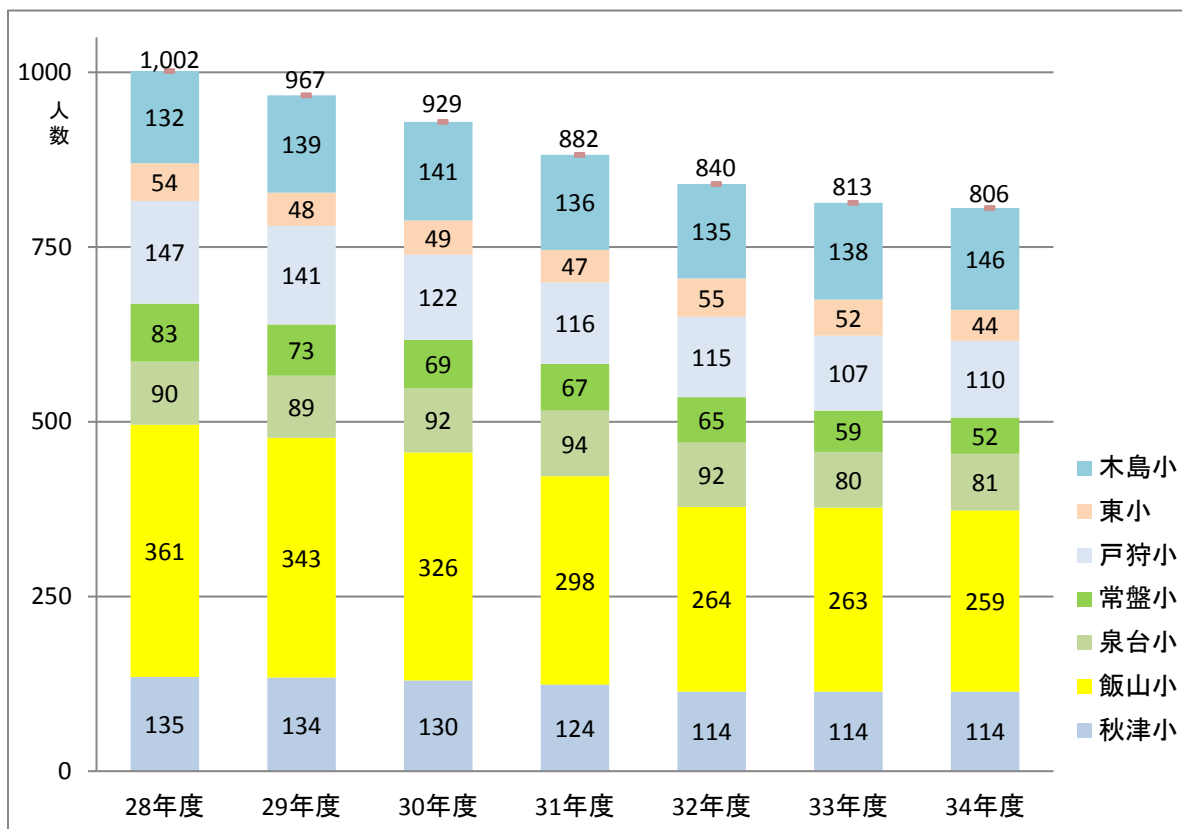
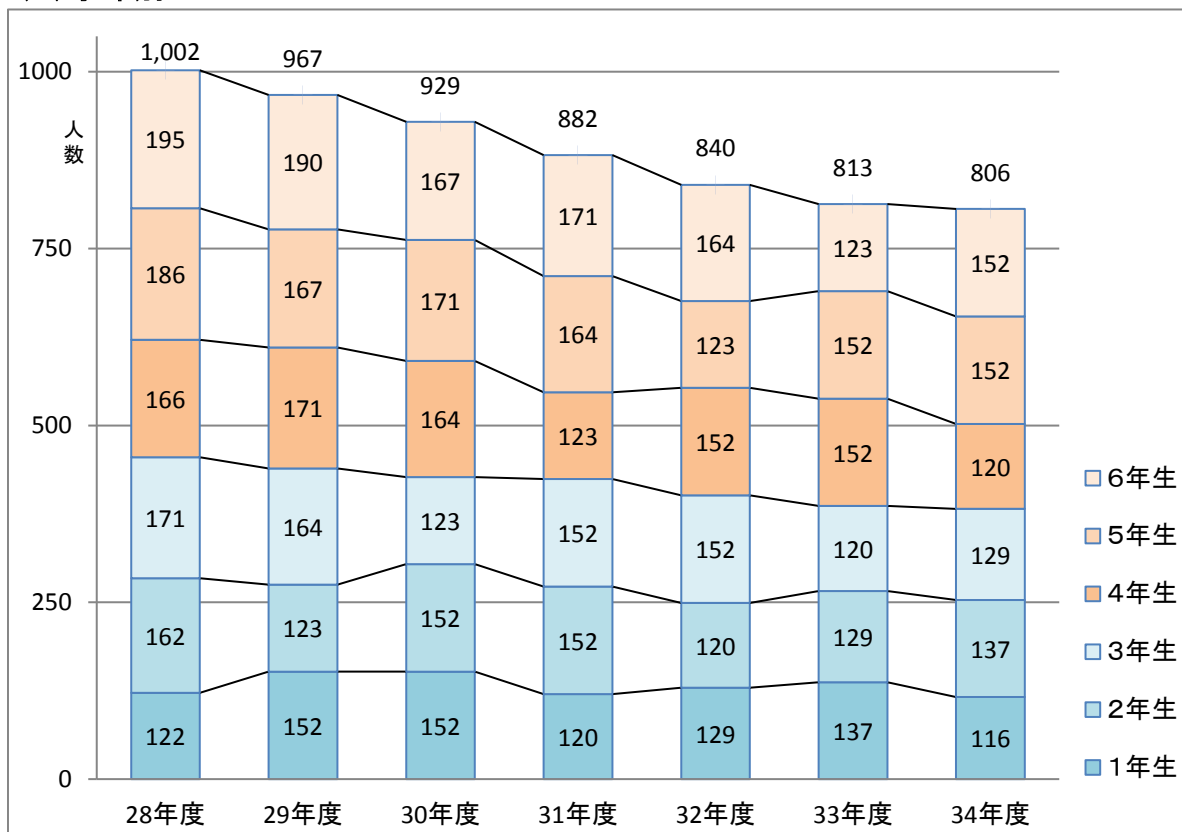


平成28～34年度 児童数の推計

(1) 学校別



(2) 学年別

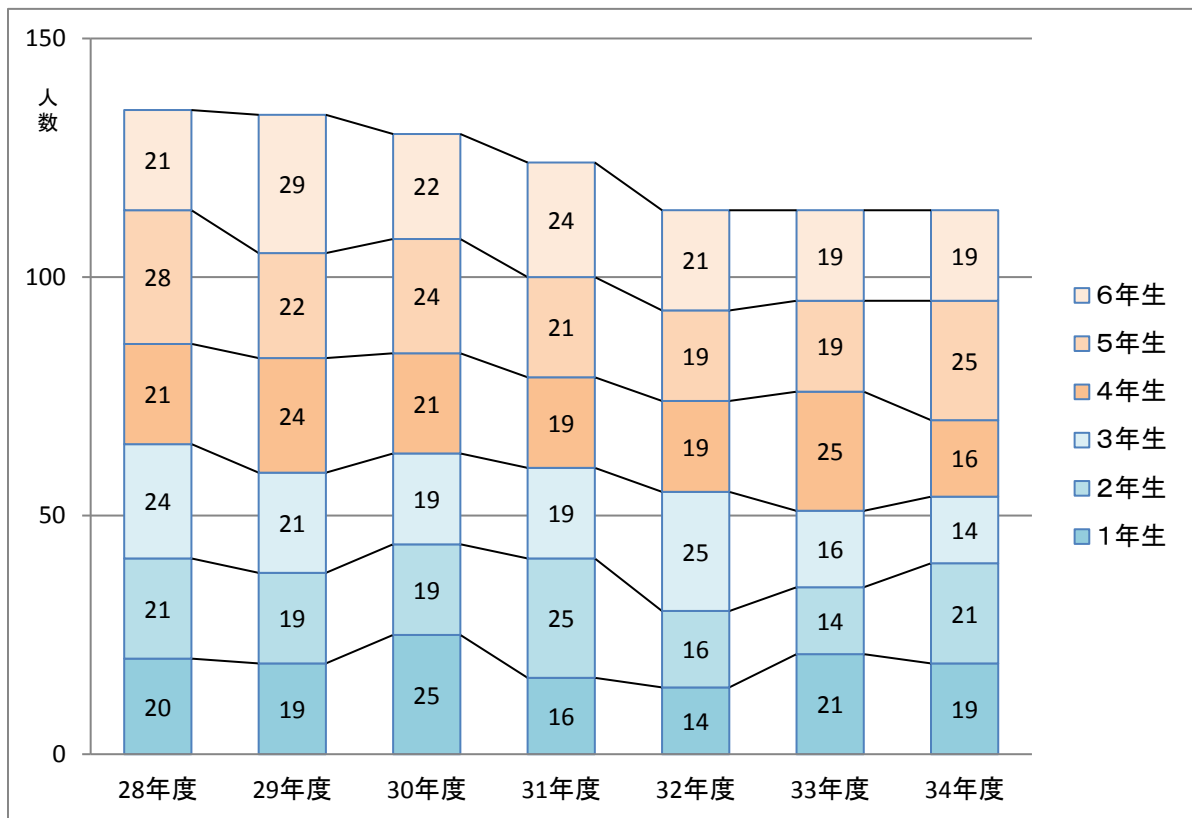


※ 平成28年度は学校基本調査による数値（5月1日現在）

※ 平成29年度以降は平成28年5月1日現在の住民基本台帳により学齢人数を各学校ごとに集計した推計値。

平成28～34年度 学年別児童数の推計

【秋津小】



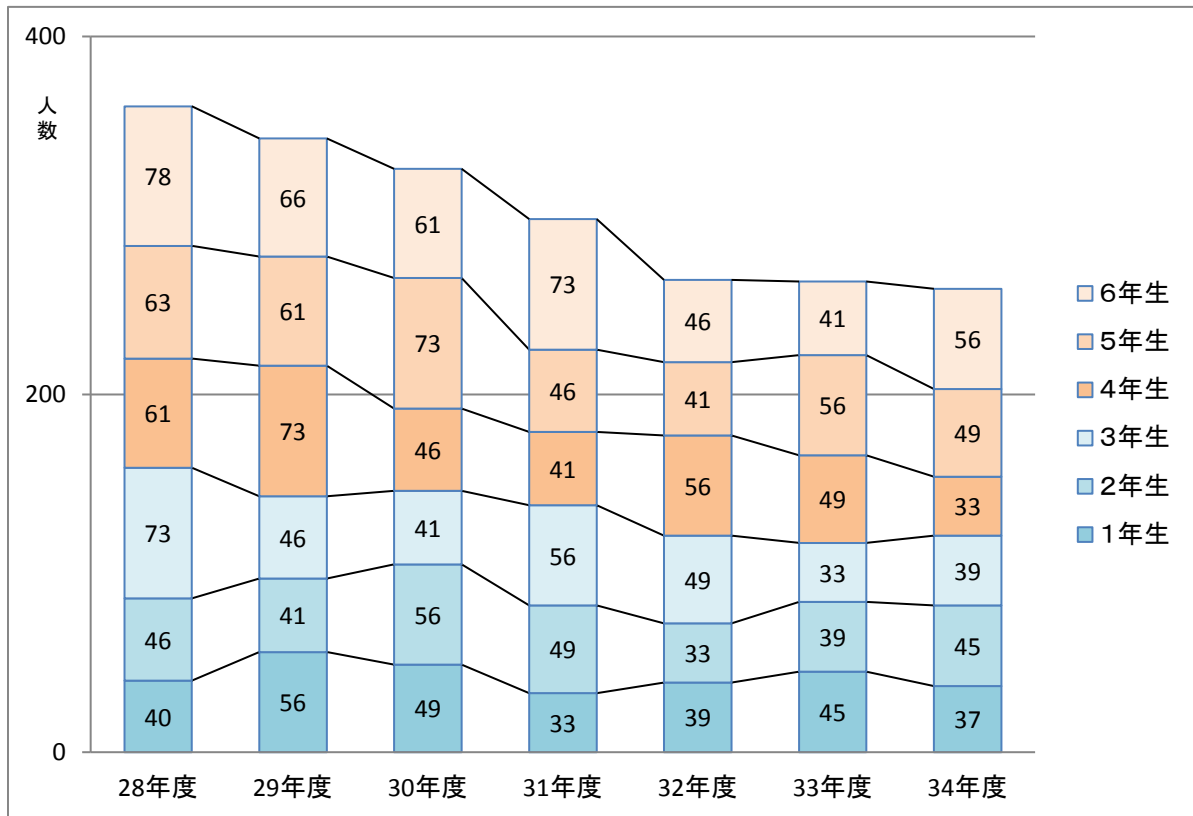
1年生	20	19	25	16	14	21	19
2年生	21	19	19	25	16	14	21
3年生	24	21	19	19	25	16	14
4年生	21	24	21	19	19	25	16
5年生	28	22	24	21	19	19	25
6年生	21	29	22	24	21	19	19
合計	135	134	130	124	114	114	114
前年対比		△ 1 %	△ 3 %	△ 5 %	△ 8 %	0 %	0 %
28対比		△ 1 %	△ 4 %	△ 8 %	△ 16 %	△ 16 %	△ 16 %

※ 平成28年度は学校基本調査による数値（5月1日現在）

※ 平成29年度以降は平成28年5月1日現在の住民基本台帳により学齢人数を各学校ごとに集計した推計値。

平成28～34年度 学年別児童数の推計

【飯山小】



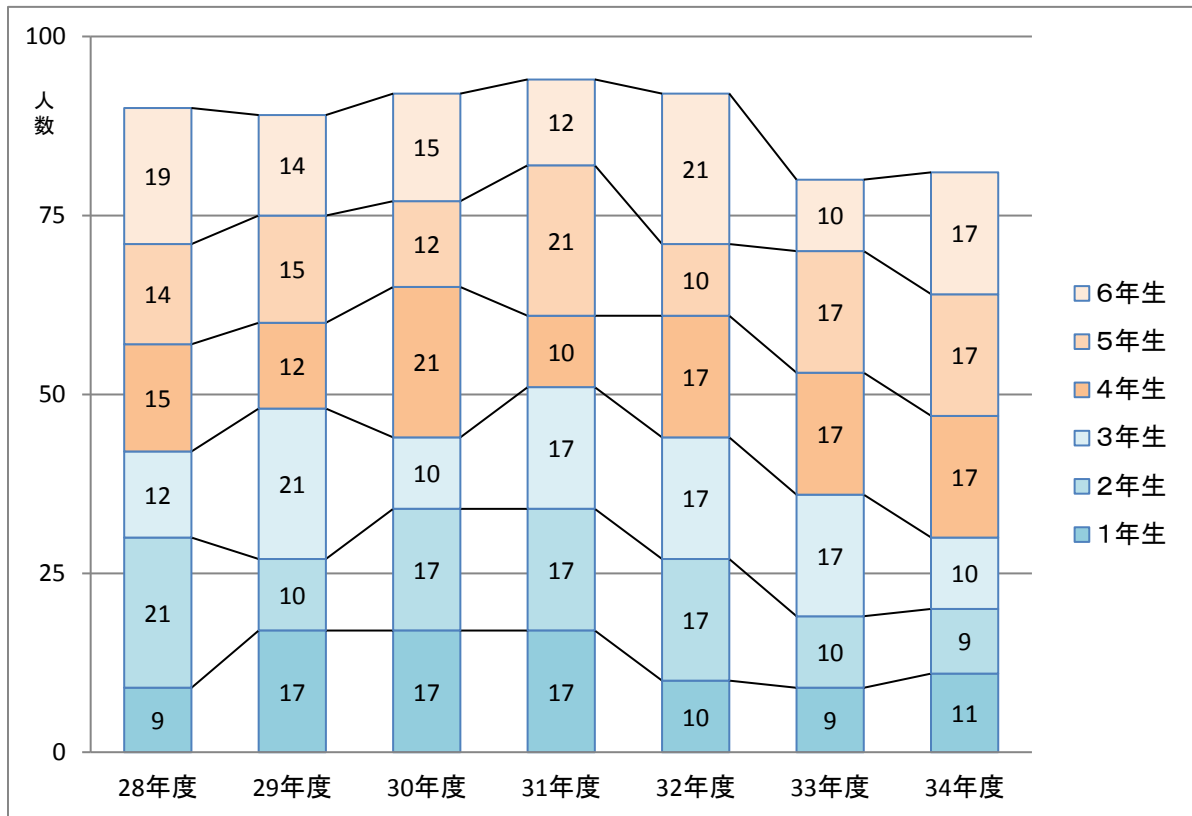
1年生	40	56	49	33	39	45	37
2年生	46	41	56	49	33	39	45
3年生	73	46	41	56	49	33	39
4年生	61	73	46	41	56	49	33
5年生	63	61	73	46	41	56	49
6年生	78	66	61	73	46	41	56
合計	361	343	326	298	264	263	259
前年対比		△ 5 %	△ 5 %	△ 9 %	△ 11 %	△ 0 %	△ 2 %
28対比		△ 5 %	△ 10 %	△ 17 %	△ 27 %	△ 27 %	△ 28 %

※ 平成28年度は学校基本調査による数値（5月1日現在）

※ 平成29年度以降は平成28年5月1日現在の住民基本台帳により学齢人数を各学校ごとに集計した推計値。

平成28～34年度 学年別児童数の推計

【泉台小】



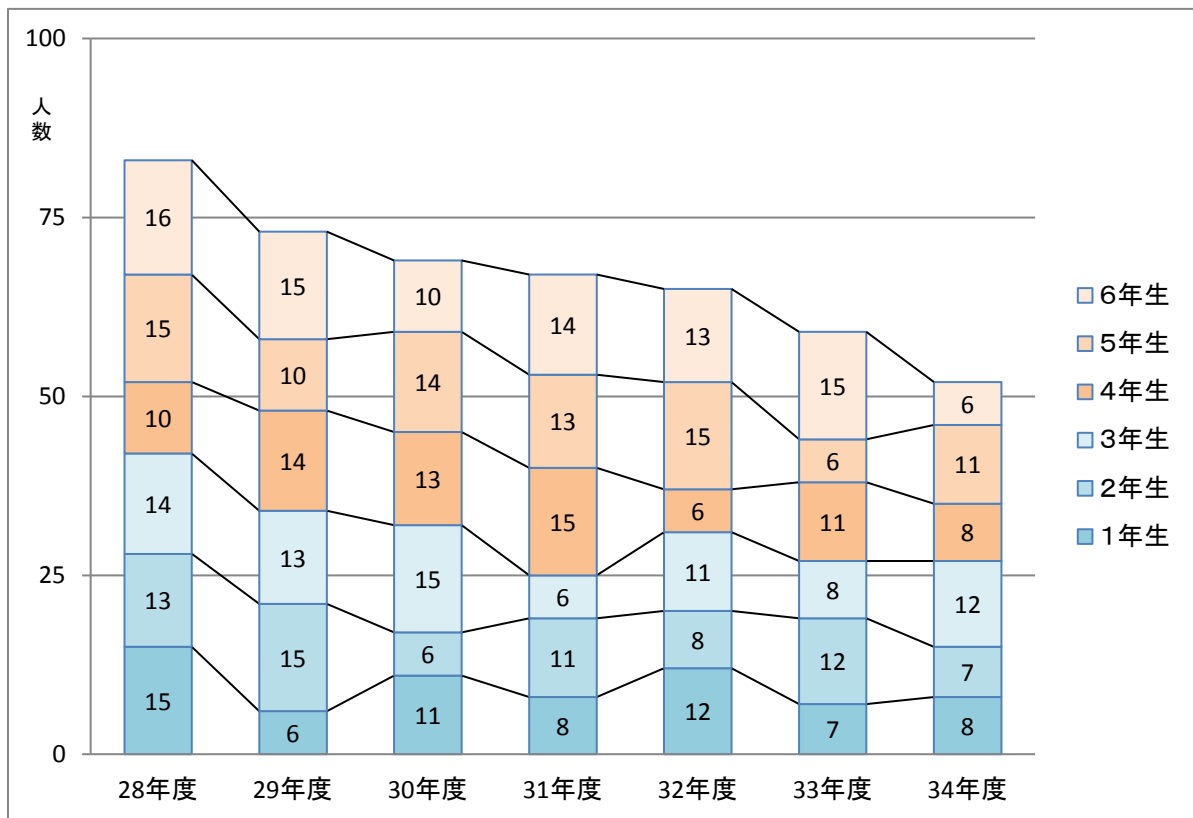
1年生	9	17	17	17	10	9	11
2年生	21	10	17	17	17	10	9
3年生	12	21	10	17	17	17	10
4年生	15	12	21	10	17	17	17
5年生	14	15	12	21	10	17	17
6年生	19	14	15	12	21	10	17
合計	90	89	92	94	92	80	81
前年対比		△ 1 %	3 %	2 %	△ 2 %	△ 13 %	1 %
28対比		△ 1 %	2 %	4 %	2 %	△ 11 %	△ 10 %

※ 平成28年度は学校基本調査による数値（5月1日現在）

※ 平成29年度以降は平成28年5月1日現在の住民基本台帳により学齢人数を各学校ごとに集計した推計値。

平成28～34年度 学年別児童数の推計

【常盤小】



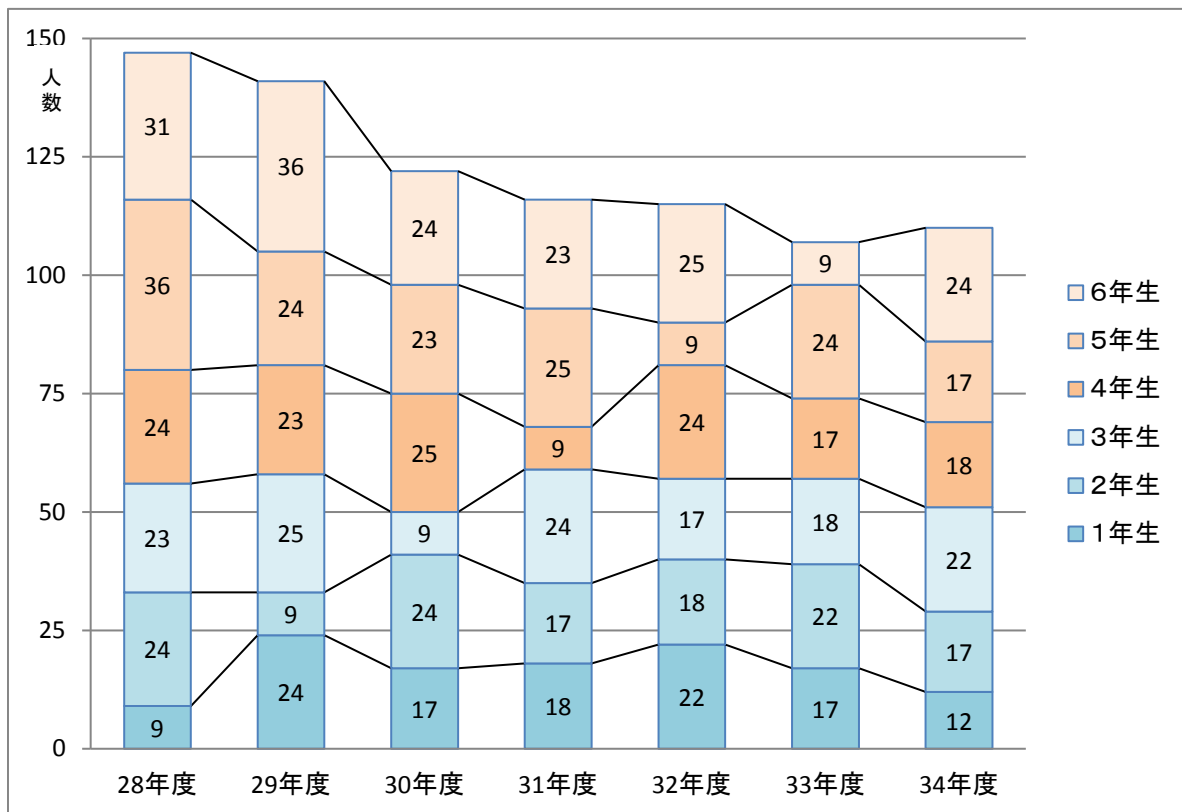
1年生	15	6	11	8	12	7	8
2年生	13	15	6	11	8	12	7
3年生	14	13	15	6	11	8	12
4年生	10	14	13	15	6	11	8
5年生	15	10	14	13	15	6	11
6年生	16	15	10	14	13	15	6
合計	83	73	69	67	65	59	52
前年対比		△ 12 %	△ 5 %	△ 3 %	△ 3 %	△ 9 %	△ 12 %
28対比		△ 12 %	△ 17 %	△ 19 %	△ 22 %	△ 29 %	△ 37 %

※ 平成28年度は学校基本調査による数値（5月1日現在）

※ 平成29年度以降は平成28年5月1日現在の住民基本台帳により学齢人数を各学校ごとに集計した推計値。

平成28～34年度 学年別児童数の推計

【戸狩小】



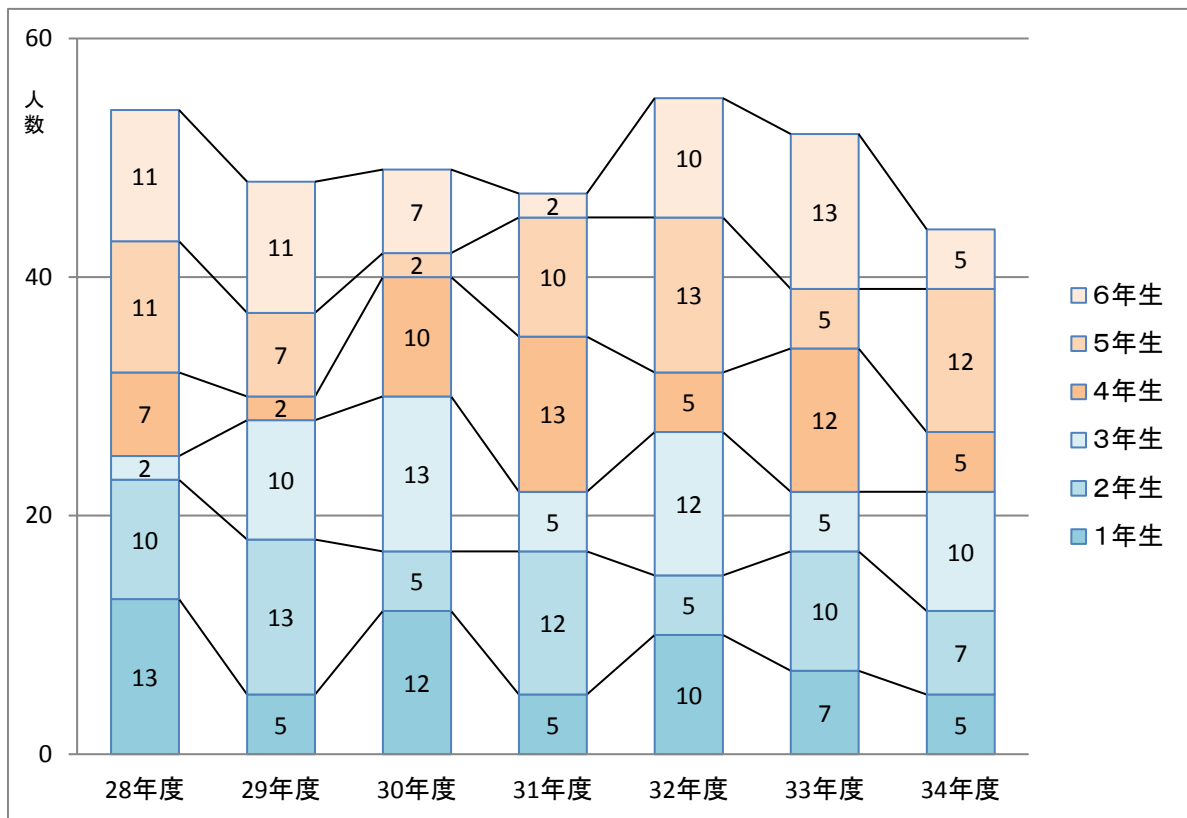
1年生	9	24	17	18	22	17	12
2年生	24	9	24	17	18	22	17
3年生	23	25	9	24	17	18	22
4年生	24	23	25	9	24	17	18
5年生	36	24	23	25	9	24	17
6年生	31	36	24	23	25	9	24
合計	147	141	122	116	115	107	110
前年対比		△ 4 %	△ 13 %	△ 5 %	△ 1 %	△ 7 %	3 %
28対比		△ 4 %	△ 17 %	△ 21 %	△ 22 %	△ 27 %	△ 25 %

※ 平成28年度は学校基本調査による数値（5月1日現在）

※ 平成29年度以降は平成28年5月1日現在の住民基本台帳により学齢人数を各学校ごとに集計した推計値。

平成28～34年度 学年別児童数の推計

【東小】



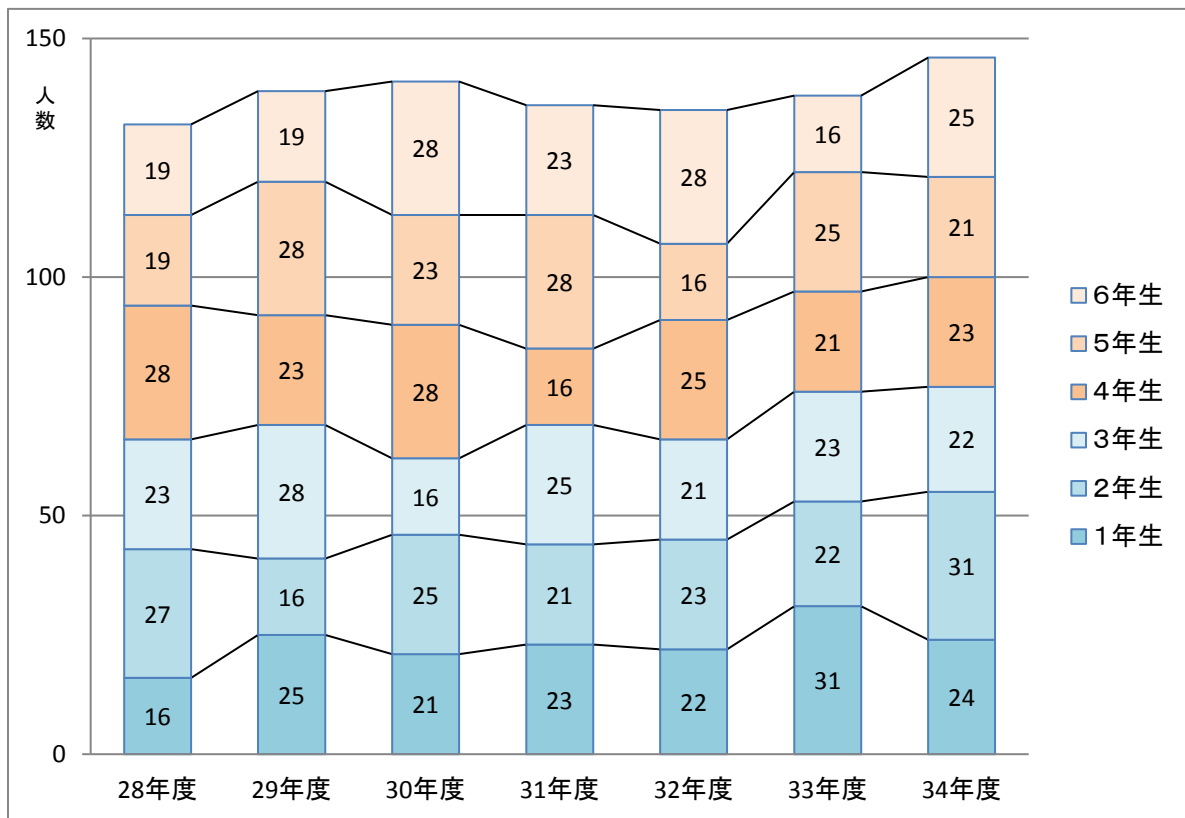
1年生	13	5	12	5	10	7	5
2年生	10	13	5	12	5	10	7
3年生	2	10	13	5	12	5	10
4年生	7	2	10	13	5	12	5
5年生	11	7	2	10	13	5	12
6年生	11	11	7	2	10	13	5
合計	54	48	49	47	55	52	44
前年対比		△ 11 %	2 %	△ 4 %	17 %	△ 5 %	△ 15 %
28対比		△ 11 %	△ 9 %	△ 13 %	2 %	△ 4 %	△ 19 %

※ 平成28年度は学校基本調査による数値（5月1日現在）

※ 平成29年度以降は平成28年5月1日現在の住民基本台帳により学齢人数を各学校ごとに集計した推計値。

平成28～34年度 学年別児童数の推計

【木島小】



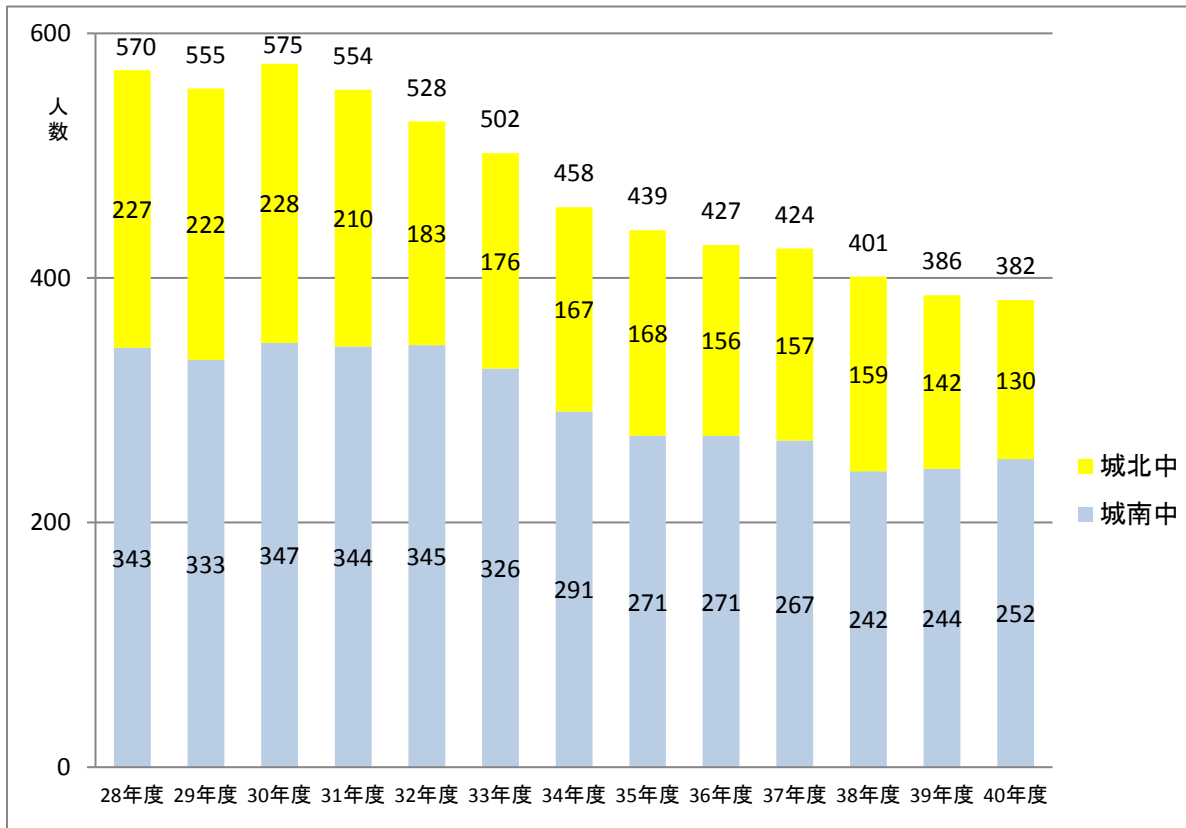
1年生	16	25	21	23	22	31	24
2年生	27	16	25	21	23	22	31
3年生	23	28	16	25	21	23	22
4年生	28	23	28	16	25	21	23
5年生	19	28	23	28	16	25	21
6年生	19	19	28	23	28	16	25
合計	132	139	141	136	135	138	146
前年対比		5 %	1 %	△ 4 %	△ 1 %	2 %	6 %
28対比		5 %	7 %	3 %	2 %	5 %	11 %

※ 平成28年度は学校基本調査による数値（5月1日現在）

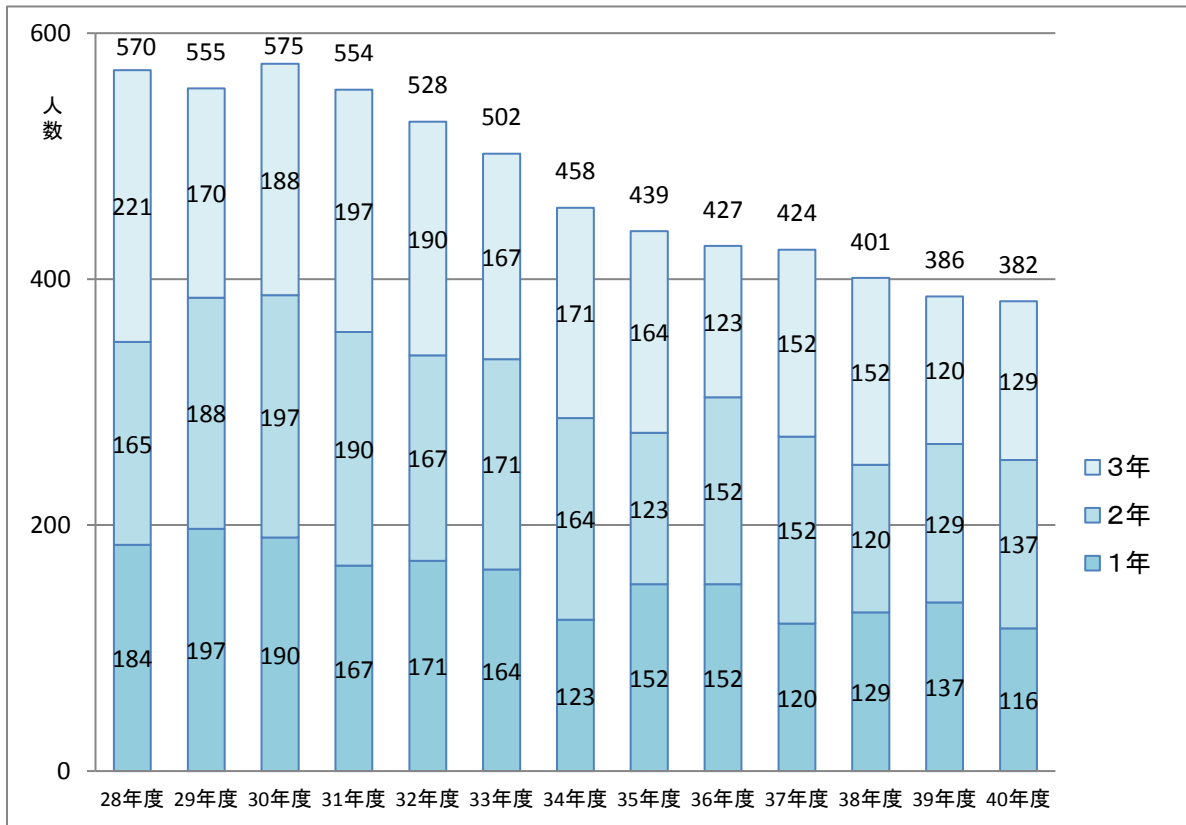
※ 平成29年度以降は平成28年5月1日現在の住民基本台帳により学齢人数を各学校ごとに集計した推計値。

平成28～40年度 生徒数の推計

(1) 学校別



(2) 学年別

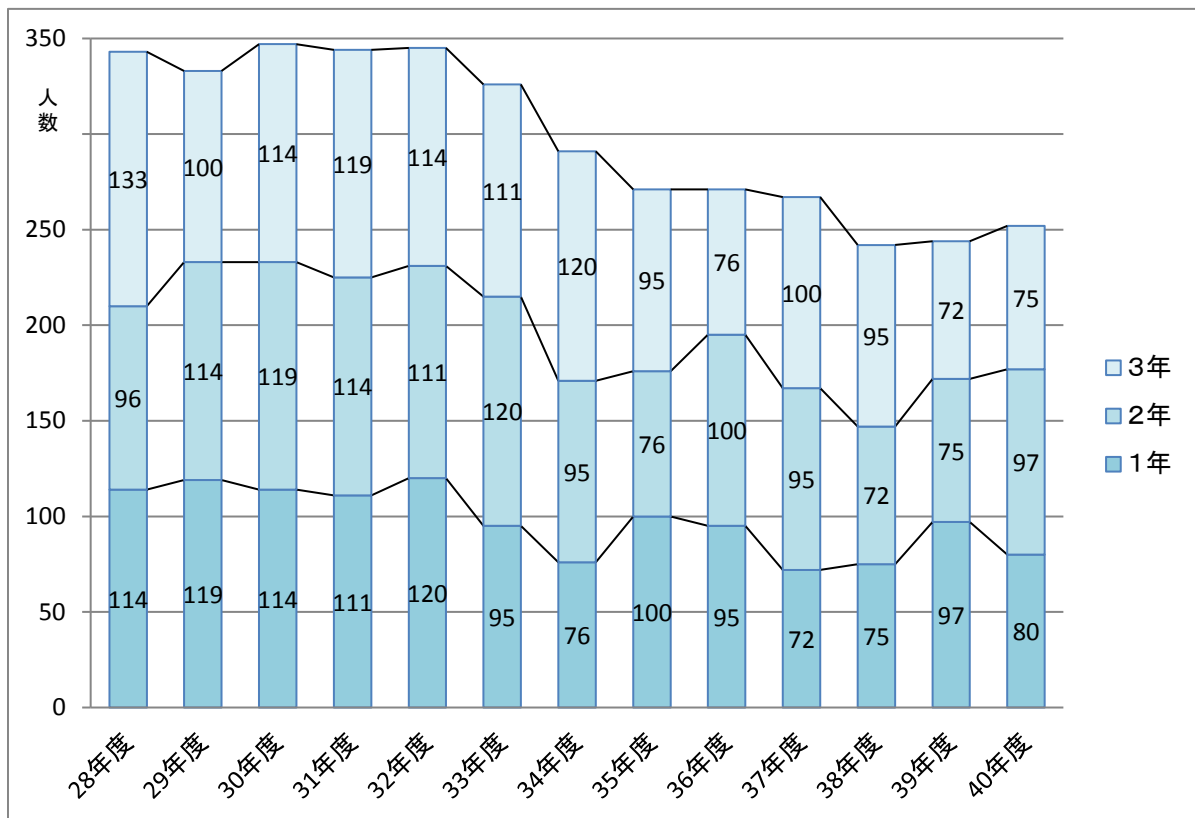


※ 平成28年度は学校基本調査による数値（5月1日現在）

※ 平成29年度以降は平成28年5月1日現在の住民基本台帳により学齢人数を各学校ごとに集計した推計値。

平成28～40年度 学年別生徒数の推計

【城南中】



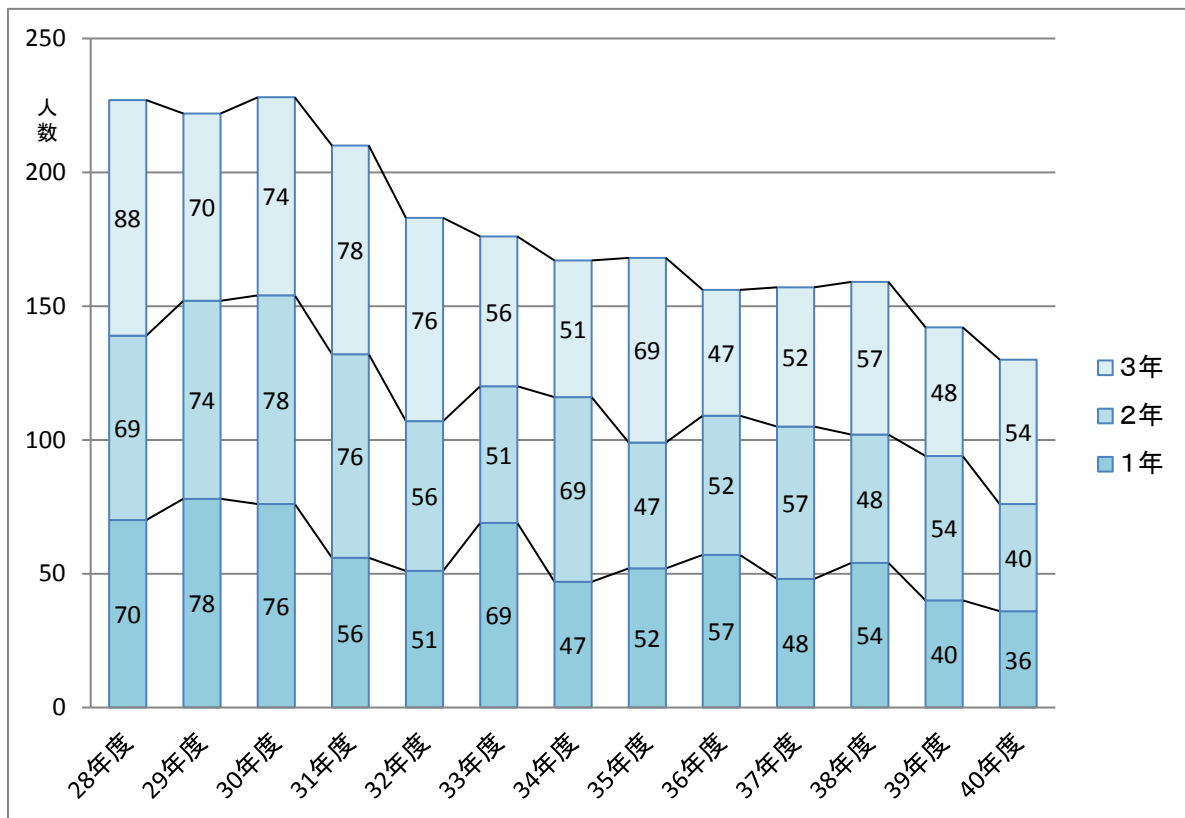
学年	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度	38年度	39年度	40年度
1年	114	119	114	111	120	95	76	100	95	72	75	97	80
2年	96	114	119	114	111	120	95	76	100	95	72	75	97
3年	133	100	114	119	114	111	120	95	76	100	95	72	75
計	343	333	347	344	345	326	291	271	271	267	242	244	252
前年対比	0.00%	-2.92%	4.20%	-0.86%	0.29%	-5.51%	-10.74%	-6.87%	0.00%	-1.48%	-9.36%	0.83%	3.28%
28年対比	0.00%	-2.92%	1.17%	0.29%	0.58%	-4.96%	-15.16%	-20.99%	-20.99%	-22.16%	-29.45%	-28.86%	-26.53%

※ 平成28年度は学校基本調査による数値（5月1日現在）

※ 平成29年度以降は平成28年5月1日現在の住民基本台帳により学齢人数を各学校ごとに集計した推計値。

平成28～40年度 学年別生徒数の推計

【城北中】



学年	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度	38年度	39年度	40年度
1年	70	78	76	56	51	69	47	52	57	48	54	40	36
2年	69	74	78	76	56	51	69	47	52	57	48	54	40
3年	88	70	74	78	76	56	51	69	47	52	57	48	54
計	227	222	228	210	183	176	167	168	156	157	159	142	130
前年対比	0.00%	-2.20%	2.70%	-7.89%	-12.86%	-3.83%	-5.11%	0.60%	-7.14%	0.64%	1.27%	-10.69%	-8.45%
28年対比	0.00%	-2.20%	0.44%	-7.49%	-19.38%	-22.47%	-26.43%	-25.99%	-31.28%	-30.84%	-29.96%	-37.44%	-42.73%

※ 平成28年度は学校基本調査による数値（5月1日現在）

※ 平成29年度以降は平成28年5月1日現在の住民基本台帳により学齢人数を各学校ごとに集計した推計値。

15歳児より5千人少ない0歳児

10月1日現在の人口調査

・29.12/5

1区の0歳児は15歳児の半数

12区も厳しい減少率

20歳人口も少なく1万4千人

今年10月1日現在の、本県の0歳児は1万5103人で、1万5千人をこらうじて上回る状況にあることが、県の『毎月人口異動調査』から明らかになった。区別では1区の0歳児は現15歳児の半数という、極めて深刻な状況。また、本県高校卒業生の大学流出率は全国的に見ても非常に高い状況にあるが、20歳の本県人口は、15歳児の7割にまで減少していることも明らかになっている。

表に郡市別の人口状況を、旧12通学区（以下、区と表記）ごとに示した（下高井郡は1区と2区に町村が分かれるため、町村ごとの数値を記載。また、長野市は3区と4区に分かれるため、3・4区は合区で示した。1区は厳しい少子化。

飯山市の0歳児は100人を切り、15歳児を100とした場合の指数は43にまで減少する。その結果、区全体の0歳児は15歳児の半数となる。高校再編議論では飯山と下高井農林2校のあり方を、しっかりと議論する必要がある。	12区も厳しい少子化。大町市の0歳児指数は54。北安曇郡も指数56で、区全体の0歳児は指数55にまで減少する。大町市、池田工業、白馬の3校ある12区だが、地域全体での早めの議論が望まれる状況だ。
--	---

い少子化。0歳児の指数は62は、15歳児の3分の2以下に減少するということが。本紙11月5日号では、第2期高校再編基準の公表に合わせ、「1校減は避けられない2区」と報じたが、厳しい状況にある。

市郡別では前述の飯山市が指数43で最も低く、このほか、坂城高を抱える埴科郡、小県郡が指数50を切り、半減以下という状況。指数50台は野沢温泉村、山ノ内町、上高井郡、上水内郡、下伊那郡、東筑摩郡、大町市、北安曇郡と郡部が多くなっている。また、市では前述の飯山市、大町市のほか、千曲市が指数60。中野市、須坂市、小諸市も指数60台にある。

大学数が少なく、その収容力は全国で最も低く、そのため、県立高校を卒業し県外大学へ進学する割合は、毎年8割を超えている本県。過日行われた「総合教育懇談会」（詳細は本紙11月25日号に掲載）でも、大学は県外へ進学しても、本県に戻ってくる教育を求める声が相次いでいた。そこで今回は20歳人口の状況も郡市別に示した。

15歳児を100とした場合の20歳人口の指数は71。3割近くが県外に出ている状況が分かる。18歳と20歳人口を比べると6千人以上減少している。郡市別では信州大・松本大を抱える松本市は指数111で、人口は増えているが、他の郡市は大きく減少している。長野市も指数69、18歳人口と比べると1376人少ない地域だ。

個別に見ると指数が最も小さいのは下水内郡の指数20。50以下なのは野沢温泉村、小県郡、下伊那郡。市では伊那市が53、飯田市が54、中野市と須坂市が57という低さ。大学は県外に行っても、しっかりと地域に戻ってくる教育がさらに求められる地域だ。

区別の10月1日現在の人口

		0歳	3歳	6歳	9歳	12歳	15歳	18歳	20歳	15歳児を100とした 場合の0歳児指数	15歳児を100とした 場合の20歳児指数
1区	飯山市	95	105	127	164	184	220	229	131	43	60
	下水内郡	6	7	9	7	11	10	14	2	60	20
	木島平村	32	31	36	36	45	41	41	22	78	54
	野沢温泉村	20	20	25	26	24	37	30	16	54	43
	小計	153	163	197	233	264	308	314	171	50	56
2区	中野市	297	366	365	404	400	447	421	254	66	57
	須坂市	330	405	430	472	459	536	492	306	62	57
	山ノ内町	50	54	77	89	92	98	122	57	51	58
	上高井郡	96	114	154	175	197	174	176	97	55	56
	小計	773	939	1,026	1,140	1,148	1,255	1,211	714	62	57
3区・4区	長野市	2,890	2,995	3,180	3,341	3,549	3,712	3,943	2,567	78	69
	千曲市	368	415	459	546	565	616	588	436	60	71
	上水内郡	99	103	147	179	170	195	193	100	51	51
	埴科郡	68	86	103	139	120	141	124	76	48	54
	小計	3,425	3,599	3,889	4,205	4,404	4,664	4,848	3,179	73	68
5区	上田市	1,131	1,268	1,313	1,411	1,488	1,476	1,528	1,295	77	88
	東御市	206	260	274	267	310	321	304	207	64	64
	小県郡	46	64	65	89	76	93	83	43	49	46
	小計	1,383	1,592	1,652	1,767	1,874	1,890	1,915	1,545	73	82
6区	小諸市	288	355	376	379	368	416	406	272	69	65
	佐久市	760	806	860	895	946	1,020	1,142	685	75	67
	北佐久郡	289	308	331	375	402	408	427	252	71	62
	南佐久郡	129	140	182	192	224	224	216	145	58	65
	小計	1,466	1,609	1,749	1,841	1,940	2,068	2,191	1,354	71	65
7区	岡谷市	354	366	416	451	447	504	499	302	70	60
	諏訪市	405	408	383	435	442	470	499	351	86	75
	茅野市	431	472	509	505	561	557	593	439	77	79
	諏訪郡	258	294	345	379	365	395	408	245	65	62
	小計	1,448	1,540	1,653	1,770	1,815	1,926	1,999	1,337	75	69
8区	伊那市	485	563	576	654	674	690	632	364	70	53
	駒ヶ根市	248	279	288	292	340	341	313	207	73	61
	上伊那郡	605	685	777	803	827	863	826	586	70	68
	小計	1,338	1,527	1,641	1,749	1,841	1,894	1,771	1,157	71	61
9区	飯田市	856	854	897	884	901	1,058	1,008	573	81	54
	下伊那郡	376	489	491	554	618	655	572	314	57	48
	小計	1,232	1,343	1,388	1,438	1,519	1,713	1,580	887	72	52
10区	木曽郡	156	177	193	190	213	221	246	119	71	54
	小計	156	177	193	190	213	221	246	119	71	54
11区	塩尻市	590	571	498	591	596	648	694	512	91	79
	松本市	2,034	2,057	2,116	2,078	2,215	2,381	2,488	2,654	85	111
	安曇野市	671	709	786	865	871	971	926	595	69	61
	東筑摩郡	130	140	162	173	201	230	212	137	57	60
	小計	3,425	3,477	3,562	3,707	3,883	4,230	4,320	3,898	81	92
12区	大町市	136	137	162	199	229	252	237	181	54	72
	北安曇郡	168	196	241	238	296	301	282	199	56	66
	小計	304	333	403	437	525	553	519	380	55	69
	総計	15,103	16,299	17,353	18,477	19,426	20,722	20,914	14,741	73	71

〈表Ⅰ〉県人口異動調査にみる市町村別人口

※「13区」と「14区」については、最野市が区面にまたがっているため、合区で表記した。今年度末で統合して、最野市が区面にまたがっているため、合区で表記した。

※学校数は、今年度末で統合して、最野市が区面にまたがっているため、合区で表記した。

※表中の「※1」等は、統合した学校を示す。たとえば、最野市が区面にまたがっているため、合区で表記した。

※画小野小学校は、最野市に+1校、最野町に+1校として掲載している。

※多部制・単位制高校及び地域キャンパス校もそれぞれ1校と示している。

H.26-11.25

（グラフ）中学校卒業予定者数の推移

年	中学校卒業予定者数（千人）
1980	34,699
1981	32,103
1982	31,438
1983	30,054
1984	28,650
1985	26,019
1986	23,355
1987	21,247
1988	21,313
1989	20,327
1990	19,740

平成28年度教育懇談会内容

1 参加者数

学校区名	参加者数	児童数	割合
秋 津	27	135	20.0%
飯 山	40	361	11.1%
泉 台	18	90	20.0%
常 盤	46	83	55.4%
戸 狩	23	147	15.6%
東	25	54	46.3%
木 島	19	132	14.4%
計	198	1,002	19.8%

2 発言要旨（抜粋）

戸狩小学校区 10月27日（木） 参加者23名

○長野県でも上位県への視察や教職員間の交流を図り、飯山市の学力向上に向けてなお一層の配慮してほしい。

○支援クラスの期末・中間、学力テストは（通常学級と）同じものを受けるが、支援クラスではどのようなやり方でテストに向かっているのか、学校での情報が欲しい。学校と保護者との情報共有がもう少しできればいい。

○戸狩小コミュニティスクールには、毎年色々な体験メニューがある。子どもたちが楽しんで体験できるように、地元には色々な先生がいるので、学校として新しい体験を取り入れてもらえると、地元もはりきって指導に参加できる。

○コミュニティスクールは、学校の要望と関わりたいと思っている地域の方々と、コーディネートしてくれる人が必要。

○学校までバスで通っているの、地域でみんなが遊んでいる姿が見られない。

○小学校の児童数が減っている。市は学校合併を考えているのか。中学校では生徒数が減るとクラブ活動にも影響が出る。

木島小学校区 11月1日（火） 参加者19名

○他市ないような教育体制を確立してほしい。小学校卒業時には英語で自己紹介してほしい。自校給食はよい。この人口規模で自校給食を行っているのは他にない。もう少しコストを下げて子育て支援に回すなど、小中一貫校の研究をしてほしい。

○生徒数が減り、部活数が少なくなったという話を聞く。これまで続けてきた練習ができなくなるのは残念。学校でも部活の活性化を図ってほしい。

○バスによる送迎などを行い、合同で部活動の練習ができないか。通学はバスの乗車率を出してほしい。岡山地区の飯山線を通う子どもたちは通年バス運行にならないか。城南・城北お互いの状況を知る機会を検討してほしい。

○木島小は養護学校との交流がありとても良い雰囲気。これからも期待したい。

東小学校区 11月7日（月） 参加者25名

○須坂市では支援学校を小学校の空き教室を使い、支援学校の子たちと交流がある。空き教室に一般の人が自由に出入りできれば、コミュニティスクールという面でよいと思う。中学校区で小学校1校になるのも選択肢の1つ。少人数教育は、リーダー的な人間を作るという意味で、今の施策を進めてほしい。

○地域性を活かした統合もいいのではないかと。東小の学校環境、自然、ロケーションの素晴らしさを活かす方法を考えてほしい。保護者負担のかからない統合も考えてほしい。

○部活動は「生徒・先生が少なくなる関係で減らしましょう。」という動きがあった。学校の部活動へ社会体育の指導者が行くことは難しいが、学校にない活動については、社会体育で教えることもできると思う。

○コミュニティスクールの指定を受けて、あいさつ運動を始めた。小学校だけの運動では困る。中学へ行っても、高校、大学、社会へ出ても、いつか瑞穂地区へ戻ってきたときには地域の中でも挨拶ができるようにと思っている。

泉台小学校区 11月11日（金） 参加者18名

○家にコンピュータ類のものが無い。学校で教えていただくと大変うれしい。

○ライフスタイルが変わってきている。親が子どもと接する時間が非常に少ない。子ども達を地域で支えることが大事な事だが、なかなか地域としても自分の生活が精一杯という面もある。

○ボランティア等第三者が参加することは可能だが、何かあった時にどうするのかが一番心配。ボランティアとして参加したい人は沢山いると思う。参加できるような受け皿づくりをもっと構築してほしい。

○学校統合はどのように考えているのか。教育特区的な事は考えているのか。

○学校の先生は非常に忙しい中で、音楽会・運動会の練習に加え、ICTやコミュニティスクール、英語教育等が入ってくる。どのように限られた時間内に行うのか非常に危惧している。家庭学習ができない子はできる子と学力の差が出る

のでは。

○中学校で不登校になった生徒の話があり、教育から福祉の窓口へとは具体的な親の対処の仕方を教えてほしい。

秋津小学校区 11月17日（木） 参加者27名

○街灯の設置は城南中学校より北側に多く、南側の設置が少ない。また、西回線の歩道除雪は、街灯がない道路東側のみとなっている。冬期間は通学路が暗くて心配。

○西回線の歩道除雪時間が遅い。通学マナーも下校時は道路に広がって歩いている。挨拶も小学生はよいが、中学生になると年頃なのか挨拶しない生徒も多い。学力向上も大事だが、それ以前の基本的なことも大切に教えてほしい。

○学校として先生方のスマホの使用方法についての取り決めなどはあるのか。

○学校図書館は司書の先生が常駐し、子ども達が読書に興味を持ち、本を読みたくなる環境を作してほしい。

○子どもが本を読むのは自主的なのか、先生から言われたから仕方なく読んでいるのかで全然違う。貸出数の数だけを取り上げるのではなく質を上げて内容を深めてほしい。

○朝の登校時保護者送迎の自動車運転が危険。生徒の登校時間と重なり心配。できるだけ早くグリーンベルトをお願いしたい。家庭学習はどの位の時間を想定しているのか。子どもは時間をかけて宿題をやっているが終わらない。

○朝の通学時間帯、制限速度を越えスピードを出す車が多い。地区外の人を通り抜けのようだ。例えば時間を区切っての一方通行や、水路の蓋等の検討も必要。

○学校入口にある市の天然記念物に指定されているイロハモミジの枝が張り出し、枝に雪が積もり下の人に落ちてはいけな。幹が傷み空洞化しているので、子ども達の安全確保からもイロハモミジの管理について検討が必要な時期であると思う。

飯山小学校区 11月21日（月） 参加者40名

○コミュニティスクールの、放課後の学習の様子が説明されたが、参加する子は決まっているのか。放課後、学習しようとする子が自由に参加できるのか。

○新聞を読む子が少ない。大人が新聞をとっていない。外国語教育は、話せるだけでなくその国のことを知ることも必要。海外では自国や地域の事を聞かれ、ふるさと学習でふるさとを語れるように。中学は勉強が難しくなる。まず勉強を理解したうえで部活動を行うようにしたらいい。経済力や塾で勉強を理解するので

はなく、スタートラインが同じとなるよう学校で勉強時間をしっかりとってほしい。なちゅらでは、演奏会の演奏中でも会場への出入りがある。マナーがなくていい。子どもの頃から演奏中は出入りを控える等、一般的なマナーを教える必要。

○親は、子どもが勉強やスポーツができることよりも、生まれてきてよかったと思えるように育ててほしいと思う。調査結果の「将来の夢や目標を抱けない」「学校が楽しくない」自己肯定感が低いところを、小さい頃から自己肯定をもつように育つのが大事。将来の夢は、大人が子供たちに夢を語るのが大事。学校の楽しさは、まず授業で先生たちが授業を楽しんでいるように工夫を。競争・学力・スポーツなどで成績を残さないと自信がもてないようでは、いじめや自殺がなくなる。

○全国の流れの中で、学習指導要綱が厳しくなり、先生方の課題や教えなければいけないことが増え、時間的にタイトになっている。1年間の学校行事もたくさんある。そういったところを見直す予定や変更点などあるのか。

○夏場は自転車通学の生徒たちについて、冬はどうなるのか。

○歩道アーケードで中学生、高校生がスピードをだして自転車で走っている。お店から出たお客さんと衝突したことがあった。小さい子どもであれば大けがになる。自転車運転の安全指導をお願いしたい。

常盤小学校区 11月30日（月） 参加者46名

○「子どもは親の言うことは聞かず、親のすることをまねる」と言われる。子どもが学習するように、親が本を読むことが子どもに良い効果を与える。子どもが勉強をしている時に、親がテレビではなく親も本を読むように。

○学校ではいじめに対してどんな対応をしているのか。

○学力向上のために家庭学習を充実するなど、いろんなことが数値化され、平均より上なら良いとかというようなイメージがある。勉強以外でも自信をつけられいじめがなくなり、一定の基準の上下の格差でも対応していけると思う。

○今の校長先生、教頭先生には非常によくやってくれている。先生方がはつらつと明るくしている姿が子ども達にも伝わりよくなる。1年でも長く常盤小学校で頑張ってもらいたい。転任の時には今のような先生を是非選んでほしい。

○郷土料理の指導を頼まれた。多少飯山の伝統食の知識があったのでその範囲内で笹ずし・おやき・けんちん汁・常盤ごぼうを使った料理などを作った。料理の先生でも学校の先生でもないで、指導の仕方はわからないが、私が普段こんな風にやるんだと、一緒に料理を作った。子ども達に料理を作る楽しさや、常盤や飯山の食材を改めて認識した。

○大綱にある I C T の活用やタブレットを使った内容とは具体的に何か。

○タブレットを持っている家庭も多いと思う。子ども達にとって家でのタブレットはゲーム機器だが、パソコンの機能があり調べものに活用できたり、データを入れ閲覧したり大人が仕事に使っているようにタブレットを使ってほしい。

○小学校の適正規模及び小中一貫校の研究とはどんなことを研究しているのか。

○探求する気持ちは、何かに興味を持ち調べるという行動で探究ができる。何か題材を授業の中で取り上げ与えることで探究心が生まれる。ただ漠然と本を借りろと言うのではなく、何かお題として投げかけると探究心が生まれると思う。

意見（提言）書

飯山市教育大綱（飯山市教育振興基本計画 平成28年度～32年度）

（5） 地域・家庭・学校が連携して教育力を高め、 地域に学ぶ生涯学習の推進（実践）

に、焦点をあてて

平成28年11月11日（金）

飯山市社会教育委員会議

今日の急激な人口減少や少子高齢化、そして、子ども達を巡る諸課題の出現など、社会や地域の置かれている環境は、大きく変化してきています。したがって、生涯学習・社会教育は、地域住民の生きがいや生活の潤いづくりにとどまるのではなく、住民自身が身の回りの課題を学ぶこと、学んだ成果を問題解決に向けた行動に結び付けていくことなど、住民主体の地域づくりに向けた学習を支援していくことが求められてきています。

【キーワード：地域資源を生かした持続可能な地域づくり・人づくり】

また、未来を担う子ども達を健やかに育むために、市教育大綱で謳っている「学校・家庭・地域の連携協力」による様々な取り組みを推進し、地域の教育力の向上及び地域の活性化を図るとともに、女性の活躍推進を阻む「小1の壁」の打破し、次代を担う人材を育成していく必要があります。【キーワード：学校・家庭・地域連携による教育支援活動】

このようなことから、私ども社会教育委員は、活動を通したり各種研修で学んだりした中で見えてきた課題をもとに協議し、意見（提言）書としました。ぜひ教育委員会会議や総合教育会議で検討していただきたく提出いたします。

(1) 正しい鉛筆の持ち方・お箸の持ち方を

◇ 正しい鉛筆の持ち方ができると・・・

- ☆ 形のよいきれいな文字をかくことができます。
- ☆ 正しく整った文字を書くことができます。
- ☆ 速く文字を書いても、きれいに書くことができます。
- ☆ 姿勢がよくなります。目も疲れません。
- ☆ 指に負担がかからないので、手・首・肩が疲れません。

◆ 持ち方が悪いと・・・

- ★ きれいな字を書くことが難しい。
- ★ 指や腕が疲れ、長時間書けない。
- ★ 書く速度が遅くなる。
- ★ 姿勢や目が悪くなることがある。

子ども達の鉛筆の持ち方が、様々であることに驚かされます。小1年生ばかりか、中学年・高学年生にも正しく鉛筆を持てない児童が目立ちます。

学年があがるほど、癖が身について直すことが難しくなります。小学生までは、子どもに責任はなく、直してやるかどうかは親（大人）に責任があります。

一方、お箸の持ち方は鉛筆の持ち方と大きく関係があることから、正しいお箸の持ち方ができるようになることと併せて取り組んでいくことがよいと考えます。それは、お箸で物をつかむ時の上の箸1本だけが自由に動く状態で下の箸を抜くと、鉛筆の持ち方になるからです。正常なお箸の持ち方をしている飯山市内の幼児・児童・生徒の調査（平成17年度）では、年中児の約10%、年長～小3年30%、小4・5年36～44%、小6・中1年46～51%、中2・3年62～69%でした。飯山市の学校給食では、My箸でなく共用箸です。一斉に指導しやすいと思います。

持ち方はどうしても書ければいい、食べられればいいという考えは、いい生き方ではありません。正しい持ち方は、自分にとって良いだけでなく、他人に好印象を与えられることにもなります。基本的生活習慣・態度の育成の上からも大事にしたいことです。身体によく、学力向上が期待できる正しい鉛筆やおはしの持ち方を、家庭・学校・地域一緒になって取り組みたいものです。

(2) 子ども・子育て（幼児・学童）支援（放課後・休日）の充実を

「ママサポ」や「子育て支援センター」参加（利用）の若い母親から、「子育てで困っていることや、悩んでいることを、お互いに話し合ったりできるのでありがたい。」というだけでなく、母親同士友だちになれた、息抜きの時間になる等々、感謝の話を聞きます。児童館・児童センターがあることで、父母共働きができる家庭が増えてきました。市保育園も19時まで時間延長保育がされるようになりました。

国（県）では、「小1の壁」を打破することから、文科省・厚労省が協力して「放課後子ども総合プラン」を作成（平成26年）し、一体型を中心とした「放課後児童クラブ」と「放課後子ども教室」の計画的な整備を進めています。飯山市では、児童館・児童クラブは、教育委員会の監督のもと社会福祉協議会へ運営等委託しています。「放課後子ども総合プラン」の中の「放課後子ども教室」は、地域住民等の参画を得て、全ての児童を対象として学習や体験・交流活動などを行う事業です。また、安心安全な居場所確保ということで、学校施設を徹底的に活用することとされています。実施主体は、学校でなく教育委員会や福祉（民生）部です。全ての小学校で平成31年度までに実施できることを目指しています。飯山市でも早急に実施していく必要があります。このことが「子育てしやすい飯山市」実現になると考えます。

(3) 子ども・青少年にもプレイ・スポーツの場を

学校週5日制となり児童生徒の登校日数は、210日前後となりました。教科授業時数も増え、多くの友達とゆとりをもって学んだり運動したりする楽しい学校(合校・楽校)でなくなってきたように思います。児童・生徒数も減少し、切磋琢磨とかいい意味での競い合いなくなるのではないかと危惧されます。

「子どもは、遊びの中で学び、成長する。」と言われます。時間・空間・仲間(三間)があれば、子どもたちは、夢中になって遊びます。時間はあります。仲間もいるでしょうし、遊ぶ中で出来ていきます。問題なのは、帰宅後や休日の遊び空間(場所)です。

高齢者の遊び場(プレイ・スポーツ施設)は、整えられています。また、遠くても車で移動できます。しかし、子ども・青少年は、徒歩や自転車で行ける所でないと行きません。

街なかに、子ども・青少年に魅力のあるプレイランドのような施設(広場・遊び場等)が必要です。東京五輪で加わるスケートボード・スポーツクライミングなどもやりたいでしょう。特に、幼児・小低学年生が好むキックスケーターや、小中学生・青少年が好むスケートボードなど、思いきってできる施設(場)には、多くの青少年が飛びついていくでしょう。数面の3オン3のコートでバスケットボールに興ずる若者、外周でローラースケートやローラースキーで楽しむ青少年。休日には、芝生グラウンドで、バドミントンや風あげ、キャッチボールやボールけりをする親子や家族の姿も見られるでしょう。

いろいろ考えられますが、子ども・青少年にとって魅力があり、惹きつけられる場所が必要です。ルールを守り、マナーがよい態度も適当な遊び環境の中で育成されるだけに、使える土地があるうちに設置することを望みます。(学校体育施設は、放課後子ども教室の子ども、スポーツ団体の子ども達利用)

(4) 飯山の伝統工芸品「内山紙」を

新幹線飯山駅舎の外観は、「雪化粧した美しい雄大な山並みと伝統文化の内山紙(和紙の持つ伝統美)の柔らかさを感じさせる」というテーマでデザインされたものです。子ども達には、飯山の伝統工芸品の一つ和紙を、楮の木を植えて育てるところから、漉いて紙をつくるまでの過程を体験させたいものです。立派な和紙工房(体験館)があります。楮を育てるための空いた畑もあります。いろいろな和紙の制作が可能です。学校の児童生徒ばかりか、多くの市民が体験し、オリジナルな紙を制作する喜びを味わい、飯山の伝統工芸品和紙を市民みんなのものにしていきたいものです。学校での総合的な学習(ふるさと学習・高学年)や飯山雪国大学の講座内容として毎年開講することを望みます。

和紙に限らず、伝統工芸士(匠)の技を見(触れ)、指導を受け、自分で制作することは、キャリア教育そのものです。明治45年善光寺御開帳時の仁王像は、飯山仏師が制作したものであり、修復は現飯山仏壇事業共同組合伝統工芸士です。飯山だからこそその誇り、小中学生に味わわせたいものです。

(5) 誰もが生涯のいつでも、どこでも、学習の機会を選択して学べる環境に

社会が大きく変化してきている中に於いて、市民の誰もが生涯のいつでも、どこでも、自由に学習の機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価されるような社会を実現することが重要といわれています。そのためには、学習する側に立った視点を重視することが必要です。

講座や講演会などの多くは、日中に市公民館や文化交流館なちゅらで行われ、参加者は休日を除けばリタイヤした者（高齢者）、若者や子育て中（幼・保、小・中学生）の父母の年代の者は、学びたくともいけない状況です。また、超高齢者やしょう害者にとっては、受講意欲はあっても遠かったり、いろいろな不安が先行し参加できない人もいます。

一方、サークル関係者の皆さんは、会員の固定化高齢化と会員減を問題にされ、一緒に活動する仲間を求めています。また、独りで絵画や彫刻、写真や俳句（短歌）など楽しんでいる人がいます。

学習者が参加しやすい地区（集落）公民館で、少人数でも講座の開設や教室ができるような学習環境づくりが必要です。時間は、日中だけでなく夜（7時～9時）にも設定、また、超高齢者や足腰が弱くなった人が乗る自動歩行者（シニアカーなど）が、安心して利用できる歩道や路側帯にすることも急務です。

自宅の近くの会場ということは、学習機会が身近になるばかりか、個人が自らのニーズに基づき学習した成果を地域に還元しやすくなり、知の循環型社会の構築や地域コミュニティづくりが期待されます。

なお、各小学校が小規模化している現在、家庭科（調理）室、図工室など特別教室を地域住民も利用できるようにすることは、「子どもがいなくなって学校が縁遠くなった。」という者の解消、学校と地域の連携向上のために有効と考えます。将来的には、地区の学習・文化の拠点としての小学校となり、公民館・図書室なども併設（共同利用）にしていくことが考えられます。

なお、社会的要請に関する講座（研修会）を除き、個人の教養を高めたり住民ニーズに基づいたりする講座については、参加料（受講料）を徴収して実施することも良いと思います。（受益者負担）

(6) 事業づくりから、「学びづくり」「学ぶ人間づくり」への転換を

飯山市プレスリリース（10/11）に、「地域の仕掛け人を養成します！」「飯山市公民館が、地域おこしに動き出します。」の文言がありました。（平成28年度 地域づくり推進研修） 「社会教育は、『学びづくり』であり、『学ぶ人間をつくる仕事』であり、事業づくりではない。」（島田脩一 中央大名誉教授・元喬木村社会教育主事）と言っています。飯山市公民館事業は、今まで多様な学習者のニーズに対応する事業（貸し館・講演・講座等）づくりに重点が置かれてきたように思います。したがって、講演会や講座の内容や講師選定等に労を要し、また、事業評価が事業数や参加者数・利用者数だったため、人集め・人寄せのご苦労があったのではないかと推察されます。地域を担う人が、学習（活動）を通して育っていく場＝公民館と考えると、市公民館と地区公民館のそれぞれの役割を、学び・活動の視点から見直し、人づくり・地域づくりを目指す公民館であることが一層求められます。

飯山市には各地区に公民館があり、地区から推薦され教育委員会が任命した公民館長・専門部員がおり、常勤の公民館主事がいます。それぞれ個々人の学び（趣味や教養を高める）を大事にしながらも、各地区で住みよい社会・学びの社会実現のための学び（活動）が必要です。その中核となるのが公民館、活性化

センターであってほしいと思います。地域コミュニティ、地域力の回復・向上に取り組むことのできる学び・活動を通しての人づくり・地域づくりを求めます。そのためにも、嘱託公民館主事の存在は大きく、社会教育主事の有資格者や社会教育実践（経験）者になっていただくことを望みます。

なお、市の教育大綱に基づき関係機関と連携し着実な企画実践や、各地区の学びを掌握し指示・情報提供・支援していくのが、市公民館長をトップとした学習支援課（社会教育・公民館係等）であると考えられます。それだけに、公民館長の社会的地位を高めるとともに、公民館職員の増員と力量を高めていく必要があると考えます。

（７） 雪国大学について

「飯山風土記」（笹本正治監修 2003 発行）の「雪国大学」——ねばり強く学ぶ——に、「飯山市は公民館活動が盛んです。中央館として昭和 57 年に建設された飯山市公民館を中心に、10 地区に地区館を置き、その下に地域の館を組織して公民館活動を行っています。市民の多彩な文化・学習要求に応えるために、それぞれが計画を練っています。雪国大学はその代表的なもので、市の文化活動として公民館において開催されます。雪国に住む人たちはねばり強く、ゆったりと学んでいます。」と書かれています。

生涯学習の学びは、「地域の未来をつくる学び」への方向が求められています。学習の目的は、今までの「学習者の意識の変容」から「持続可能な地域への変化」となっています。学習支援も、講演会や講義などの一方通行型から参加型の学び合い型となっています。

現在、市公民館企画の講座や講演会は、すべて雪国大学として位置付けられています。飯山が誇れる「雪国大学」、大スターマインのような感動を呼ぶ講演会（公開講座、単発完結型）も必要ですが、毎回学習内容が変わる構成でなく、地域課題に取り組む講座（解決方策実施までの道筋を見据えた学習プログラム）や地域の歴史・文化をねばり強く継続して学習していく講座が大切です。（講座の中は、講義、体験、現地研修、ワークショップなど）特に、飯山が誇れる宝（ひと・もの・こと）は、大事にしていきたいものです。

（８） その他

① スポーツ振興について

市民の体育・スポーツについては、スポーツ推進室が担当しているが、スポーツイベントと施設管理で手いっぱいのように感じます。本来の目的は、スポーツの振興・推進であるだけに、市民の体育・スポーツの実態をもとに目指す方向をきめ出し推進していくことを望みます。

- ・小中学生の体力・運動能力（スポーツテスト）の実態は？ 運動部活動生の割合は？
- ・保育（幼稚園）園児は、柳沢運動プログラムで運動しているといいますが、小中学生は？（県では、長野県版運動プログラム推奨。1校1運動といっていますが・・・）市民の運動実態は？
- ・地域コミュニティ構築からも、手軽に誰でもできるタッチバレーボールの普及は？
- ・幼少期にスキーの楽しさを味わわせるための方策は？
- ・学校スキー教室もいいが、集落公民館主催でスキー楽しむ会を推奨（補助金）したら？ 等々
- ◆ スポーツイベント（大会）の競技運営は・・・委託主管団体に任せる。主催・共催は、開閉

会式であいさつ・賞状等授与にしてよい。(競技団体の力量も向上する。)

② 社会教育委員の選出について

各地域の実態(市民のニーズや課題)を理解していることが、地域・学校・家庭連携のためにも、地域づくりのためにも大切となる。したがって、学校教育関係(学校長)を除き、あと6人は小学校区から選出されることがよい。(家庭教育関係・社会教育関係、内 芸術文化・スポーツ文化・ふるさと文化関係者・学識経験者)また、6人のうち3名は女性、年齢は30代~70歳代、できればiターン・Uターン者が一人でもいると望ましい。

なお、委員は社会教育実践者ではあるが、1期2年任期の3期目になり、現状を理解でき、目指す社会教育に向かつての実践や助言ができるようになっていきます。したがって、最低3期を原則にしていくことがよいと考えます。(1期4年の市では、2期が原則)

③ 事務局について

「社会教育は、学校教育を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動」であることからして、教育部長の管轄下にあつて然るものと考えます。したがって、青少年育成補導センター長は、教育部長となっています。教育部長——学習支援課長(生涯学習課長)

公民館長

社会教育(公民館)係長

文化財係長

.....

各地区公民館長

公民館主事

④ 2020年(オリンピック・パラリンピック)に向けて

飯山に新幹線駅ができ、特に冬期間は外国人を目にするようになってきました。2020年五輪ですらに外国人増加が予想されます。この機をチャンスととらえ、行動を起こしたいものです。

・演奏会におけるマナー

・外国人との簡単な会話(女性センター未来での講座やiネットで始めている。)…特に、中学生は、英検3級取得者30%以上(市31年目標値、県では3級レベル29年40%)です。

市役所職員で40歳以下の職員は、英検3級以上有していると思う。自分の語学力UPを兼ね、英検3級受験支援ができるとよい。(学校の職員朝会・学年打合せの時間15分位、2・3年の学級)登庁時刻は20分ぐらい遅れるが、グローバル社会の市役所実現にも有益と考えます。

・外国から来られた人がいる地区では、その方から出身国の簡単なあいさつ言葉など教えてもらうことが良いと思います。地域コミュニティ構築にも役立つと考えます。

意見書作成(検討)関係会議

- ・5月10日(火)第1回定例委員会議
建議か意見書提出を決定
- ・6月27日(月)臨時会1 太田公民館
- ・7月12日(火)臨時会2 太田公民館
- ・8月31日(火)臨時会3 太田公民館
- ・10月18日(火)第2回定例委員会議
意見書(案)検討

平成27-28年度期 飯山市社会教育委員

清水 常寿

森崎 鉄兵

藤田波留美

青木 彰(28) 大熊一郎(27)

丸山 明美

米持 五郎

丸山 茂彦

- ・所在地 飯山市大字飯山 2363-1、2363-イ、2363-ロ、2361-1、2360-2、2360-1
2359 (旧 足立医院跡地)
- ・面積 1,801.9 m²

(6) 市内中学生の進路先（城南・城北）について

			22 年	23 年	24 年	H25 年度		H26 年度	H27 年度
一 区	飯 山 北	普 通	6 5	3 6	3 9	飯山高校			
		探 究	2 1	5 2	5 2	探求	4 8	4 8	4 3
	飯 山 高	普 通	4 2	5 0	4 3	普通	5 9	6 6	6 2
		スポーツ	7	7	8	スポーツ	7	5	8
	下高井農林高校			5 0	5 1	4 6	4 2		4 4
周 辺 公 立 校	中野須坂市県立全日制		9	1 1	5	1 4		1 1	4
	長野市内県立全日制		2 3	1 6	1 6	2 0		1 3	2 1
	その他地区県立全日制		1	2	0	3		1	0
	県立定時制・通信制		1 0	1	2	0		1	0
	長野工業高等専門学校		7	2	3	5		5	5
	市立長野高校		4	7	3	5		4	3
私 立	私立高校		1 1	9	8	1 1		1 7	1 2
	専修学校		2	3	4	3		2	2
	私立通信制		0	3	1	2		3	2
そ の 他	県外高校		3	2	1	0		3	1
	飯山養護学校高等部		1	1	5	1		2	0
	就職・家居		2	2	6	0		0	1
合計（卒業生数）			258	255	242	2 2 0		2 2 5	2 0 1

※平成23年度 飯山北 理数科⇒探究科 飯山 体育科⇒スポーツ科学科

※県立定時制・通信制…立志館・長野・長野西・長野工・長野商への進学者数

